

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念 キックオフ・シンポジウム 実施報告書

お問い合わせ



「地域創成プログラム」の実践
～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

派遣講師公開講座

I テーマ『経済産業省における流通政策について』



辻 伸一氏

経済産業中部経済産業局産業部長

経済史・歴史の観点から新旧の大店法について、法の成り立ちから改正など、具体的な流れを取り上げてお話しいただきました。

最初に、小売業全体の概要についてレジュメのデータなどを参照しながら傾向を分析されました。昭和57年をピークに事業所数自体が減少し、業種別では薬局が増えてきているといった傾向が見られること、小規模小売店の一人あたりの売上高、1平方メートルあたりの売上高は、大規模の店舗と効率的に差があるわけではないということが、客観的な数字から見て取れました。また、今、商店街が疲弊しているかという問題に関して、立地による依存度があると指摘されました。



大店法の歴史について、次のように解説いただきました。

昭和12年に百貨店法が制定され、昭和23年に廃止。戦後、昭和31年に再び百貨店法が現れ、百貨店法のあと、昭和40年代後半の昭和の経済成長が一段落しかかったころ、スーパーマーケットが流通業界全体に大きな影響を及ぼしたため、過度な進出を規制する検討がなされ始めました。昭和46年出されたスーパーマーケットの流通規制についての答申をもとに、旧大店法が制定されました。



旧大店法は、大規模小売店が、立地する周辺の小さな商店の営業機会を奪っているのではないかという懸念から法律ができ、最初の手続きに時間がかかりすぎるなどの問題から、平成2年~3年の間に大きな改正が行われ、平成12年に廃止となり、新たな大店立地法へと変遷したということです。大店立地法では、小規模店舗との調整が根本的な手続きから除外され、基本的に生活環境の保持に対する配慮をチェックする体制になっていることや、新たに「まちづくり」が大きなテーマとなっていることを述べられ、対応策として商店街の振興が進められており、大店立地法、中心市街地活性化法、都市計画法の「まちづくり三法」という3つの法律によって推進していることを解説いただきました。最後に大店法について「最初は小売店の問題と思われていたところから、スーパーマーケットと地元の商店街の問題、それがどんどん変化し、これからはまちづくりをどうしていくかというところに帰着した」と語られました。

>> 派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

土方 清氏（サークルKサンクス会長）

テーマ『名古屋の市場マインドとサークルK（コンビニ）の社会的意義』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像

- ▶ 人材育成

- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書

- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



派遣講師公開講座

I テーマ『名古屋の市場マインドと、サークルK(コンビニ)の社会的意義』



土方 清氏

サークルKサンクス会長

名古屋の市場マインドと、コンビニの社会的意義、存在価値についてお話しいただきました。



「閉鎖的・排他的なところがある」と言われる名古屋の市場マインドとについて、尾張徳川の歴史的な視点から独立志向を貫いてきたことや、産業の地盤がしっかりとしていること、地域内で完結型経済が確立していることなどを挙げ、その理由ではないかと指摘されました。また、名古屋弁が名古屋人気質を的確に表現しているとして、「どえりゃー」（どえらいことが好きな名古屋人）、「まけてちょ」（値切ったり負けさせる名古屋人）、「値打ちだぎゃー」（お得感を好む名古屋人）、「もったいないことしやーすな」（儉約精神の名古屋人）、「あんぱいようやりゃーよ」（堅実な名古屋人）という名古屋弁を例に上げ、これらに表現される五つのマインドが、企業を守る上でも商売をする上でも参考になると述べられました。

コンビニの社会的意義、存在価値については、生活者が求める利便性を徹底して追及して実現し続けることであると述べられ、情報を提供する「マルチメディアキオスク」を来年の導入予定であることや、老齢化社会に対応した店づくりの未来予想などを語られました。さらに、コンビニの果たしている役割について、災害時のライフラインとしての具体的な活動事例や、セーフティーステーションとして町の防犯活動に取り組んでいること、行政との連携などについて現状をお話しいただいたことは、コンビニの社会的な存在価値を再認識するものでした。



最後に土方氏の経営感、人生観などについてお話しがあり、経営というのは飛行機に例えると、自分の目で確かめる有視界飛行と計器飛行のミックスであり、数字やデータだけでなく、現場に行って確かめるのが大事だと述べられ、「消費者ニーズの変化や社会構造の変化に素早く対応し、消費者に受け入れられる商品やサービスを提供することが生き残れる道」と語られました。そして、課題や悩みの解決策は「プラス思考」や「ポジティブ思考」から生まれると語られ、前向きに考へることで成果に差が出ることをご教示くださいました。

>>[派遣講師公開講座一覧へ戻る](#)

Next>>

松村 茂氏（三越百貨店取締役上席執行役員・名古屋栄店支店長）
テーマ『名古屋における市場の特性と百貨店経営』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

▶ 地域創成プログラムの全体像

▶ 人材育成

▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007～2009年度 報告書

▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書

▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

派遣講師公開講座

I テーマ『名古屋における市場の特性と百貨店経営』



松村 茂 氏

三越百貨店取締役上席執行役員・名古屋栄店支店長

三越百貨店の歴史と今を通して、百貨店全体のこれから在り方をお話しいただきました。

現在、日本では少子高齢化が進み人口が減少し、生産人口やお客様も減り、消費税率アップや放送通信業の伸び、ネット取り引き、全国各地での商業施設の建設計画など、百貨店にとって大変多くの逆風が存在することを示されました。そして「これから生き残っていくには、百貨店ならではの価値を発揮させなければならない」と述べられました。そうした逆風の中、愛知県（浜松、三重県の商圏範囲含む）では全国と異なるデータも出ており、愛知県は2007年に全国トップの人口増加率、県民所得第2位、世帯あたりの金融資産は東海地方がトップなど、小売業にとって非常に良い状況の、全国でも珍しい地域であると述べられました。



三越の創業は1673年（延宝元年）。三重県伊勢松阪の三井高利が「越後屋」を作り、三井銀行から命を受けた日比翁助が日本初のデパートを作ったのが始まりであり、高利の残した「商いの道、なんにしても進歩を工夫いたすべきそぞう（土魂商才）」という思想、翁助が残した「利より義を重んじる武士の魂」（百貨店は儲けだけではなく、お客様のため、社会貢献を常に考えていかなければいけない）という精神が、現在も三越の企業理念「社会的貢献と企業の繁栄」「伝統を越える革新性」「まごころと創意工夫」に通じていると語られました。



最後に、2008年4月1日の伊勢丹との統合について「三越・伊勢丹の統合後の百貨店としても、文化性の発信や上質なサービス、お客様との強い関係性は失わず、しっかりやっていきたい」と語られました。そして三越のコーポレートメッセージである「誰にでも訪れる一生に一度の特別な日も、ささやかな日常の中の一日も、お客様一人ひとりに喜びに満ちた時間が舞い降りるように、三越の提供する商品、情報、サービスがそのお役に立ち、お客様の明日に続く豊かさを提供することが私たちの誇りであり喜びです」という言葉を紹介し、これが今後の百貨店経営が目指すべき道であると締めくくられました。

[>>派遣講師公開講座一覧へ戻る](#)

Next>>

清水 真氏（株式会社清水屋代表取締役相談役・前会長）

テーマ『起業の創造と国際交流の意義』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

▶ 地域創成プログラムの全体像

▶ 人材育成

▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書

▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書

▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



I テーマ『企業の創造と国際交流の意義』



清水 勲 氏

株式会社清水屋代表取締役相談役・前会長

清水氏と春日井ロータリークラブで交流の深い、株式会社グリーンテック代表取締役中島宗幸氏と、大誠医科器械株式会社代表取締役北健司氏からもお話をいただき、講師の先生方から人生の意義、企業経営者の心構え、器の大きさなどを学ばせていただきました。

中島氏は『隙間産業から企業を起こす』というテーマで、起業体験を語られました。ハウスメーカーの営業職をされていた中島氏は、品質パトロールという職業に転職します。その仕事がきっかけとなり、46歳で起業。家族を抱え、最初の3、4年は仕事も少なく大変な苦労をされますが、5年後、ようやく事業が軌道に乗り始めます。創業11年目を迎えた2007年7月、約50億弱の売り上げを達成し、2010年の株式上場を目指とされています。「この業界を日本中の人に認知してほしい」という強い思いを語られました。



北氏は『雪山登山から人生を考える』をテーマに、雪山体験から学んだ人生の教訓を教示いただきました。16歳の冬に高校の山岳部の冬山合宿に参加した北氏は、それ以来雪山に魅了され、56歳になった現在も現役で雪山登山に挑戦されています。そうした経験から、雪山登山では、全てを自己責任で行動しなければならないと説かれます。雪山を人生になぞらえ、「皆さんの未来は真っ白に埋め尽くされた大雪原そのもの。遥か彼方には輝く頂がいくつもそびえています」と、学生に未来の希望を託されました。

清水氏からは、ロータリークラブの活動体験から『国際交流の意義』についてお話しいただきました。春日井ロータリークラブの会頭を務める清水氏は、世界社会奉仕にも積極的に取り組まれています。タイに奨学金制度を設け、ラオスに小学校を建設するなど多くの実績を残しています。また、若いころは青年会議所で活動をされており、カナダとの姉妹都市提携を結んだ体験を紹介されました。そうした体験を通じて、若い世代の人が世界に目を向け学ぶことは、将来の大きな糧になると語られ、「夢を追うことに答えはない。10年先、20年先には夢を実現していただきたい」と、学生にエールを送りました。



>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

名城 邦夫教授（名古屋学院大学地域連携センター長）
テーマ『日本・ヨーロッパにおける金融システム発展史』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

派遣講師公開講座

I テーマ『日本・ヨーロッパにおける金融システム発展の比較史』



名城 邦夫教授

名古屋学院大学地域連携センター長

専門分野である西洋経済史を基調に、日本とヨーロッパの金融システムについてお話し
いただきました。

最初に現在の立場から見た金融システムの概要について説明があり、2003年度の日本の金融資産2680兆円、金融負債2510兆円、差し引き170兆円ほどのプラスの金融資産があり、GNPが500兆円であるという日本の経済規模を示されました。続いて長期金融と短期金融、二つの金融方式、銀行の決済機能、銀行の種類などについて概要を説明され、次にヨーロッパ金融システムの歴史について述べられました。ヨーロッパ中世後期の貨幣金融システムの在り方、13世紀末の西ヨーロッパにおける金融システムの成立、18世紀後半～19世紀にかけて産業革命などの過程の中で完成された近代的金融システムの流れなどについて解説がありました。



解説中には、1609年、最初の近代的銀行アムステルダム銀行の設立。1694年、政府貸付目的の株式会社、イングランド銀行が設立。1826年、銀行法改正によってイングランド銀行を頂点とするピラミッド型の民間商業銀行主義に基づく金融システムが完成。1833年、銀行条例を契機にイングランド銀行が政府の銀行としての形を整え、1825年恐慌から1830年代にかけて中央銀行の金融政策を実施し、1844年、ピール銀行条例によって中央銀行機能が完成といった具体的な事例の説明があり、分かりやすくお話しいただきました。



次に、ヨーロッパと対比する形で、日本の金融システムの成立について解説がありました。江戸時代の貨幣制度や金融システムに始まり、幕末から明治維新にかけての財政基盤の形成、1870年～85年にかけて国立銀行・私立銀行の設立、松方財政と日本銀行の設立といった、日本の金融史をお話しいただき、最後に、金融システム発展史について次のような所見を述べられました。

「日本は、江戸末期に出来上がった金融システムが、ヨーロッパとの編入の中で変化しながら存続し、重要な役割を果たしていましたが、ヨーロッパの編入がされ変化する中で、二重構造という一つの大きな問題を起こしました。中小企業あるいは中小金融という中で、大企業と中小企業・中小金融というかたちの二重構造が、日本の変化の中で起こっていたとも考えられるのではないかでしょうか？」

>> 派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

吉田 英都氏（東海財務局理財部長）
テーマ『最近の金融庁における金融政策について』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2006年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



I テーマ『最近の金融庁における金融政策について』



吉田 英都氏

東海財務局理財部長

金融とは、金融行政の取り組み、名古屋の金融の特色、最近の金融の話題サブプライムローン、という四つのテーマに分けてお話しいただきました。



最初の金融に関するテーマでは、金融の定義とは広義で“お金が余っている人からお金が足りない人へ融通する”ことであると述べられ、毎年の資金過不足のGDP比フロー表の具体的な数字を基に、バブル期以降の国家財政や金融情勢について解説され、昨今の「貯蓄から投資へ」という流れの中で、金融行政としていかに上手く運営するかを考えていると強調されました。

また、金融行政の取り組みについてのテーマでは、平成19年の金融担当大臣の発言「金融改革プログラム」終了にあたっての所感を引用され、10年前の金融システムが大変だった時代から、ようやく安定した状況となって今、金融行政の今後の課題として、利用者満足度の高い、地域経済に貢献する、国際的にも競争力のあるものを作ることを示されました。また、地域密着金融の推進として、リレーションシップバンキングの取り組みを政策課題として行っていると述べられました。

名古屋の金融の特色については、企業向け貸し出し金利が全国に比べて低い経済現象「名古屋金利」であると説かれ、その要因について、東海地域の産業の特色や金融環境などを紹介し、「良い企業が多く、借金をせず、金融機関も良い企業にしか貸そうとせず、競争も少しある」というのが名古屋ならではの特色だと見解を述べられました。

最後に、最近の金融の注目の話題、サブプライムローン問題について分かりやすく解説いただきました。収入が比較的小ない人向けのアメリカの住宅ローン「サブプライムローン」の証券化が繰り返され、アメリカの住宅ローン市場が値崩れしてうまく回らなくなり、住宅ローンを返せない人が増えた結果、サブプライムローンを組み込んだ証券の価値がなくなり、世界中の金融が逼迫する状況を招いたとのことです。日本の金融機関にはそれほど大きな影響はないと思われるが、問題が円高に影響し、輸出で景気が支えられている日本にとって間接的な影響が出るかもしれない、懸念を示されました。



>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

佐々 和夫氏（株式会社三菱東京UFJ銀行副頭取）

テーマ『名古屋における金融業の特質と三菱東京UFJ銀行の企業戦略』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念 キックオフ・シンポジウム 実施報告書

お問い合わせ



「地域創成プログラム」の実践

~「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流~

派遣講師公開講座

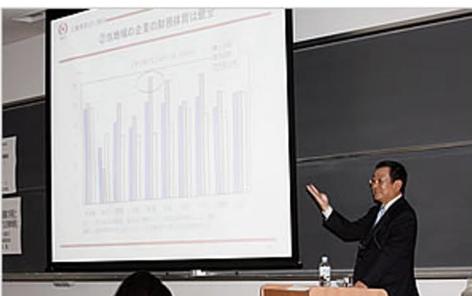
I テーマ『名古屋における金融業の特質と三菱東京UFJの企業戦略』



佐々 和夫氏

株式会社三菱東京UFJ銀行副頭取

「名古屋における金融業の特質と三菱東京UFJ銀行の企業戦略」をテーマとした講演が行われました。



最初に、名古屋の金融業を取り巻く経済環境についてお話しがあり、1955年には輸出の1位が陶磁器という軽工業主体であった時代から、1970年には自動車がトップとなり、以降、重化学工業化への流れが進んだという、産業構造の変化について解説されました。また、そうした産業構造の変化に伴って銀行のサービスも変化したと述べられ、1979年NCD（譲渡性預金）スタート、1983年公共債の窓販開始、1990年代金融の自由化が進展、バブル崩壊、1997年山一証券・拓銀の破綻、長銀・日債銀の国有化といった、過去の経済環境の流れを説明されました。

そうした過去の経済環境を受け、近年の経済状況について、全国と東海地域を比較しながら解説いただきました。2005年の愛知万博開催、セントレアの開港などが地域の景気振興に影響し、東海地域では鉄工業生産が大きな伸びを示し、海外景気も良好で、設備投資の伸びも堅調といった経済環境があり、東海地域は業況が良くて収益力の高い企業が多いと説かれました。

また、名古屋金利の主な要因について、健全経営・無借金志向の企業が多く、資金需要が弱いため金利が低下すると説かれ、資金の供給サイドから見ても東海地域は大変景気が良く、資金供給が必要を上回っている傾向があり、金利が低下すると説かれました。また、東海地域の企業のメインバンクに対する評価について、1位が、その企業のことをよく知っていること、2位が広範なサービスの提供、3位がファイナンス力と紹介され、銀行として、広範なサービスの提供ができる道であるという考えを述べされました。



最後に三菱東京UFJ銀行の役割について、企業の顧客ニーズについては資金調達の支援、資金調達の安定化ということで、シングルローンや私募債、国際業務のアドバイス、事業継承、ビジネスマッチングなどの取り組みを紹介されました。また、個人顧客ニーズに対しては、PBO（プライベートバンキングオフィス）の全国展開などを紹介されました。そして結びに「Quality for You」というグループメッセージを紹介し、「サービスNo.1」「信頼度No.1」「国際性No.1」というメッセージは、グループ総力を挙げてこれらを目指すという決意であることを述べされました。

>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

加藤 千磨氏（株式会社名古屋銀行会長）

テーマ『バブル崩壊後金融業の混迷と名古屋金融の未来』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



派遣講師公開講座

I テーマ『バブル崩壊後金融業の混迷と名古屋経済の未来』



加藤 千麿氏

株式会社名古屋銀行会長

日本の金融の歴史に始まり、バブル経済の発生から崩壊後までの経緯と諸問題や、加藤会長と関わりの深い中国のマーケットについてお話しいただきました。

日本の銀行の歴史は、三重県の三井高利が1683年に両替店を開設したことになります。國立銀行条例に基づいて渋沢栄一が明治6年に第一國立銀行を創立し、名古屋では伊藤銀行や名古屋銀行、愛知銀行、明治銀行などが設立されたと述べられました。また、室町時代から続いた庶民金融の無尽（むじん）や頼母子講（たのもしこう）が発展し、昭和26年に相互銀行に転換した金融機関が、名古屋銀行を始めとする第二地方銀行と言われる銀行の元であると解説されました。



次に、バブル経済の発生と崩壊について、1985年9月のプラザ合意から始まり、総量規制による株価暴落、アメリカのブラックマンデー、竹中平蔵大臣による強力な不良債権政策、1991年以降バブル経済の崩壊後のイトマン事件を中心とする不祥事、金融の合併連携などがあったことを解説されました。また、バブル崩壊後の諸問題について、株式市場の大混乱、外国人投資家の台頭、繰り延べ税金資産の適正化が激しく行われたことなどを挙げ、「バブル崩壊について単に不良債権が多発したというだけではなく、不良債権の処理をやり過ぎ、潰れなくていいところまで潰れてしまったのではないか」という見解を述べられ、金融機関の取り組みとして、不良債権の処理やコスト削減を通じて収益を上げていくことが大事であると語られました。



最後に、中国ビジネスとの関わりについて、1985年に沿海開放都市の一つである南通市と業務協定を結び、1986年に駐在員事務所を設置して以来20年以上、多くの中部地区の企業を誘致したと述べられました。また、鄧小平の演説をまとめた『南巡講話』という本を紹介され、鄧小平が考える社会主義市場経済の推進について「経済特区」や「先豊か論」などの解説をされました。さらに近年の中国経済について、日本の内閣府による世界経済の展望によると、中国のGDPは2030年には36兆ドルにまでなり、日本を凌ぐとの見解を示していることを紹介し、経済が大きく伸びている中国は、金融機関にとって非常に大事なマーケットであると締めくくられました。

>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

石渡 世紀氏（瀬戸信用金庫副理事長）
テーマ『名古屋経済における地域金融の意義』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念 キックオフ・シンポジウム 実施報告書

お問い合わせ



派遣講師公開講座

I テーマ『名古屋経済における地域金融の意義』



石渡 世紀氏

瀬戸信用金庫副理事長

企業の寿命の考え方や、働くことに対する意識の変化、企業と金融の関係など、多彩な話題が展開されました。

最初に『ゾウの時間とネズミの時間』という本を紹介され、大きな動物には安定性、小さな動物は小回りが利くという特徴があると述べられました。これを企業にあてはめ、大企業は安定性という良い面があり、中小零細企業には小回りが利く良い面があるとした上で、小動物の小回りと大きな動物の安定性は相容れない性格だが、どちらを選んでもある程度は生きて行くことができ、つまり大企業でも中小零細企業でも、環境変化に対しては一長一短で、それなりにやっていけるという結論を示されました。



また、企業の寿命について独自の方法で推計され、一般的に普通の企業に就職すれば30~40年ぐらい寿命があり、60歳まで勤めると仮定するならば、1回ぐらい転職することになるという論を展開されました。また「働くことの意識調査」という、平成19年度の新入社員に対して行ったアンケートを紹介し、会社の選択理由の上位に「自分の能力、個性を生かせるから」など自己実現の場を会社に求める傾向を指摘され、ご自身の新入社員当時は価値観が変化していると述べられました。



次に、信用金庫の主要取り引き先である中小企業の問題について取り上げ、大企業に比べて中小企業は景気の回復が遅れ、さらに格差を拡大する傾向が見て取れると述べ、そうした中で中小企業の直面している課題として、人件費の問題や事業承継の問題、原材料価格の上昇などがあると指摘されました。そのような課題の中で中小企業は、新しい事業への進出、M&Aや買収など、活発な動きをしていると述べられました。

最後に、中小企業にとって信用金庫の役割について、中小企業にとっての金融機関とは「企業の血液」であり、お互いに見つめ合っていく関係の中で、企業がある程度のレベルに至るまで育していくことが地域金融機関の役割であると述べられました。そして、信用金庫は地域機関の大きな柱となっており、収益を目指す資本主義社会の中にあって、共同でお互い融通し合ってやっていくという理念のある組織が市場経済の中にあることは、非常に大きな意味がある、という考えを示されました。

>>[派遣講師公開講座一覧へ戻る](#)

Next>>

石田 建昭氏（東海東京証券株式会社代取締役社長 最高経営責任者）
テーマ『コミュニティハウスとしての東海地区リテール戦略』

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007~2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ



「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

派遣講師公開講座

I テーマ『コミュニティハウスとしての東海地区リテール戦略』



石田 建昭氏

東海東京証券株式会社代取締役社長 最高経営責任者

第1部「証券会社を取り巻く環境の変化とCHIQ革命」、第2部「コミュニティハウスとしての東海地区リテール戦略」という2つのテーマについて講演が行われました。

第1部では、まず証券会社を取り巻く環境の変化について、証券会社は変化の真っ只中にあり、その変化について、金融システムの改革・金融市場の構造変化・投資家の変化・金融商品の国際化・マーケット回復という五つのカテゴリーに分けて解説された上で、マーケットが証券会社にとって順風になってきており、「貯蓄」から「投資」へという時代であると述べられました。



また、証券会社の役割として「CHIQ革命」を進めていることを示され、「Cheap」安さの革命、「Quality」経営の高度化などの取り組みを行なっており、お客様の多岐にわたるニーズに応えられるかどうかが証券会社が生き残りのポイントであると述べられました。また、証券会社の課題として、マーケットが広がる中で生き残るために持つことが必要であり、経営の安定性・差別化・新しいマーケットの開拓などが、マクロ的な意味での証券会社の戦略のポイントであると述べられました。



第2部では、東海東京証券のリテール戦略について、多彩な取り組みを紹介いただきました。「プレミアハウス」や「経営3カ年計画」、IT戦略、アライアンス戦略など、お客様のあらゆるニーズに対応する戦略に取り組んでいることを紹介されました。さらに、地域貢献への取り組みとして、ブランディング、ネットワーク、商品・サービス、地域貢献の四つをキーワードに、東海地区でブランドを確立する活動を行っており、さらに、多彩な店舗の展開や全国でのセミナー活動など、お客様との接点を強める“面”的なネットワーク活動、最新情報提供サービスなどにも力を入れていることなどを紹介されました。

そのほか、地域経済界と積極的にリレーションを持つためのご当地ファンド、愛知大学での寄付講座、新現役ネットの応援といった活動を紹介され、最後に、こうしたコミュニティハウスとしてのノウハウを以て戦略を打ち出し、東海地区を大事にすると同時に、全国で展開することを最大の特徴に業務を推進し、経営を行っていると述べられました。

>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

Next>>

『派遣講師公開講座を振り返って』受講者の感想 経済学科2年 竹内裕貴さん、経済学科2年 佐藤文香さん

『所感』名古屋学院大学地域連携センター長 名城邦夫教授

▲このページのトップへ

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

■ 現代GPとは？

■ 地域創成プログラムとは？

・地域創成プログラムの全体像

・人材育成

・地域貢献

■ 特集

■ 派遣講師公開講座

■ イベント開催報告

■ 実施報告書

・「地域創成プログラム」の実践

・「地域創成プログラム」の実践

・2008年実業報告書

・2007年1月22日、確定記念

・カクオフ・シンボリックム

実施報告書

■ お問い合わせ



派遣講師公開講座

| テーマ「派遣講師公開講座を振り返って」



経済学科2年 竹内裕貴さん / 経済学科2年 佐藤文香
さん

名古屋学院大学地域連携センター長 名城 邦夫教授

受講者の感想

経済学科2年 竹内裕貴さん

僕は金融に興味があるので、特に第2部の講座に興味を持ったのですが、財界の上に立っている人たちの経済の見方や考え方など、これから社会に出て挑戦していくうとする自分の考え方では、やはり違ったことがあると感じました。講師の方々の話は、身近に起きてている実際の出来事がテーマだったので、現実的なものを見て学びたいと思っている僕にとって魅力的な内容でした。特に印象に残っているのは、中部経済局の吉田経財部長と、東海東京証券の石田社長の講義です。今日(1/9)の新聞に、東海東京証券がニューヨークに現地法人を開業するという記事が載っていて、石田社長の話を思い出しながら“やっぱり愛知県は元気なんだ”と思いました。



トップに立つ人というのは躍進感に満るタイプが多いと思っていたが、普通の人よりもっと下から物事を見ている、本質を突き止めようとする姿勢があると実感しました。そして、“僕はなんて生意気に上から物を見てるんだろう。うわべばかり見てるんだろう”と感じたので、これからは本質を突きとめていく姿勢で学び、そのためには広い視野を養っていかなければと思いました。



経済学科2年 佐藤文香さん

通常はとても会えないような立場の方々の話を聞けるという、貴重な体験ができました。また、トップマネジメントと言われる立場の方々の人生観を垣間見ることができたことも、とても良かったです。特に印象に残っているのは、ユニークな木元会長の講座で、自分の会社の経営の中にトヨタ方式を取り入れたというお話を、とても興味深かったです。ほかの会社のアイデアを取り込むということが斬新だと思いましたし、もとからある体制を全て崩すのではなく、アイデアを自分の会社の中で消化し、使いやすくして取り入れるという方法が面白いと思いました。トップに立つ方は頭の柔らかさ、柔軟性が必要なのだと感じました。

私の将来の目標は、まだハッキリ決まっていませんが、その場その場で小さな目標を立て、それを達成していくことで、自分の一つのストーリーを完成していきたいと考えています。一つ一つの目標を達成しながら積み上げ、ストーリーを組み立てられる人生を望んでいます。90分という限られた時間の中で幾種のトップにいる方々の話を聞き、自分を立ち返るきっかけと、新たに自分が目指すものを見つけるきっかけをいただき、とても役に立ったと思います。

所感

名古屋学院大学地域連携センター長 名城 邦夫教授

今回の企業研究1、2とも、カリキュラム改革の一環として行っています。最近の学生は問題意識を持つということに弱く、受身の形でしか授業に参加しなかったり、積極的に物事を考えたり興味を持つことが弱くなっています。そういう状況の中で、実際に経済活動の中心になっている現場の人と学生が触れる事によって、学生のモチベーションを上げたいというのが、カリキュラム改革の最初の趣旨でした。

そうした中で、企業研究1については工場見学を中心に行い、非常に学生のモチベーションが上がった効果がありました。そして今回の企業研究2では、特に名古屋の財界を中心とした主要な方々を講師としてお呼びしました。流通関係と金融関係で活躍している方々の生の話に触れる事によって、学生も非常に熱心を持ち、私たちが思った以上に学生の熱心が高かったことは、シートを見てもよく分かります。このような結果から、今回の趣旨は成功であると思います。



カリキュラム改革の中で、現場で学生を教育したり、社会の中で学生を教育していくことが、現在の大きな流れになっています。そうした流れの一つの出発点として、我々は4年前に、瀬戸市の商店街で“マイルポスト”という課題を出し、学生が社会の中に入っての現場での勉強を実践しました。そういう環境で学んだ学生はモチベーションが上がり、その後、もっと深く勉強したい、留学してみたい、NPO活動を続けたい、という学生が出てきました。こうした成果から、社会の中で自分が認められることで自信を持ち、将来に対するやる気が出て、その後の勉強などのモチベーション向上に繋がっていくということが分かりました。

また、私自身、経済史を30年以上教えていますが、だんだん学生の熱心が弱くなっているのを感じます。より学問的、アカデミックな場面に導いていためにも、やはり学生のモチベーションを上げる必要がある感じています。社会の中で、実践的な中で勉強しながら“自分たちの社会はどうなるのか”と本気で考えるようなモチベーションを付けなければ、勉強の意味は分からないようです。

名古屋キャンパスが開設しましたので、名古屋の市場経済、名古屋の社会の活力などに学生を触らせることによって、より教育効果を上げたいと考え、それを体系化して作ったのが今回の現代GPです。地域をより良いものにするにはどうしたらいいか、トータルで考えていくような授業。現場で地域の人たちと一緒にしての町おこしや地域おこし。この二つを両輪にしながら、私たち地域連携センターは地域の人たちと一緒に、地域の将来的な発展について考えたり、実践的な活動に取り組んでいます。名古屋市と協定を結び、名古屋都市ビレッタや白鳥庭園、熱田生涯学習センターなどと一緒にして、地域のよりよい発展についてお互いに協力関係を作りながら活動し、そういう中で学生に教えていく。そういう仕掛けを作っています。

学部の実際の授業と、地域連携センターの地域での活動、そういう二つで、これから新しい名古屋学院大学の教育をどう導いていかが現代GPの大きなテーマです。今回実施した公開講座の小論文を見ると、学生は非常に面白いことを書いていますので、熱心は高く、非常に成果が上がっていると感じます。今年度はさらに発展させた形で、学生のやる気を振り起こしていくような取り組みを行なっていきたいと考えています。

>>派遣講師公開講座一覧へ戻る

▲このページのトップへ